

## 《報告》

### 1995 International System Dynamics Conference Tokyo, Japan July 30 through August 4 ISDC 1995 TOKYO大会

島田俊郎\*

#### 1. 東京大会発足

1991年8月、ISDCバンコック大会のSystem Dynamics学会理事会で1995年度大会を東京で開くことが提案され、我々はこれに同意した。1990年にSD学会の日本支部が発足していたので、東京大会を日本支部の主催とし、支部長の島田俊郎をConference Chairmanとした。

#### 2. 千葉予定

SD学会の開催地として、東芝の金子さんのお骨折りで、宿舎、会場が同一場所で可能である、千葉県茂原のエアロビックセンターが1993年前半まで予定されていた。

#### 3. Program Committee, Organizing Committee選定

1993年7月のメキシコ、カンクンのSD学会で同大会のProgram ChairであるスペインのProf. Machucaに東京大会のProgram Chairの推薦を依頼した。Prof. Machucaは間もなくProf. Saeedを推薦した。島田はバンコック大会のCo-chairmanとしてProf. Saeedに協力し、親密であったので、Prof. SaeedのProgram Chairは好都合であり、すぐ依頼し、同教授の快諾を得た。ついで亀山三郎教授と相談し、両Committeeの外国memberを予定、Prof. Saeedの了解のもと、同大会に出席の、予定memberの了解を得た。さらにProf. SaeedからProgram Committeeに日本を入れたらとの助言があり、亀山三郎、大鹿譲両教授がProgram Committeeに加わった。

メキシコ大会の後、Conference Chair島田名で両Committeeの予定member宛、正式の依頼状を送ったところ、2、3名をのぞき、快諾された。

#### 4. 近藤次郎先生を名誉議長に依頼

学術会議の前会長である近藤次郎先生を名誉議長にお願いしたところ快くお引き受けいただいた。先生のお名前が大会のOfficial Letterの上段にのったことが、Official Letterに重みを付けた。

#### 5. 学習院開催決定

1993年の中頃、学習院大学の森田道也教授からSD大会を学習院で引き受けるというお申し出があり、ここで1995年SD大会の学習院開催が決まり、大会の主催は、SD学会の日本支部と学習院大学となった。千葉県のエアロビックセンターに使用中止を連絡したところ無条件で了解してもらった。

---

\*明治大学

国際会議を大学で開く利点は2重にあり、まず会場使用料を払わないでよいのが普通であり、さらに主催大学は国際会議助成金の規約を持つ場合が多い。学習院大学は本大会に対し、多くの会場の使用料を免除された上、森田道也教授のお骨折りもあって、1994年、1995年の2年にわたり250万円の高額助成を行われた。

本大会の成功は専ら、学習院大学開催と森田道也教授ほか学習院大学の教授方の絶大なご努力の賜である。

森田道也教授は現在The System Dynamics Society のVice President At Large: 2001-2003である。

## 6. 国内委員会、実行委員会

既に森田道也教授は国際Organizing CommitteeのChairmanであったが、学習院大学開催に伴い、国内委員会、実行委員会が改組され、前者の委員長を亀山三郎教授、後者の委員長を森田道也教授が引き受けられ、同時に、森田教授は大会の事務局長として以後大会の開催、終了までのほぼ一切を指揮された。

## 7. 募金委員会

本委員会の委員長は曲折を経た後、実行委員会で日本大学の榛沢芳雄教授にお願いした。榛沢教授のお骨折りで全部の電力会社から助成金を受けることができた。

各実行委員の方々にはそれぞれの関連の会社を回られ助成金集めに努力されたが、折悪しく、不況下であり、苦労をおかけした。

## 8. Program Chair, Prof. Saeed

Conference Programの内容はすべてProf. Saeedにお任せした。同氏は1991年のバンコック大会のChairmanとしてProceedingsを作った経験をお持ちだし、現在のSD学会の会長でもあるので、お任せしてよいと考えた。論文はすべてProf. Saeed宛に送らせ、以後の論文の受理、その通知、本論文受理、Program編成、Proceedings編集までを総てProf. Saeedにお願いした。最後にProgram印刷原版、Proceedings印刷原版を学習院大学に送ってもらい、学習院大学の田中伸英教授のお計らいで総てが印刷された。Programについては森田教授がProf. Saeedとインターネットを通じて常時連絡していた。

亀山三郎、大鹿譲両Program委員は計20部のAbstractを査読した。

Proceedingsは大きな2巻本で

System Dynamics '95 -Volume 1 Page1-312 Plenary Program

System Dynamics '95 -Volume 2 Page313-1046 Parallel Program

このように、Program、Proceedingsの編集、印刷は全くProf. Saeedと田中教授のお陰であった。

## 9. 実行委員会の経過

1993年学習院大学開催が決まってからは事務局長の森田教授の主導のもと学習院大学でほとんど毎月開かれ開催の準備が進められた。

## 10. 作業の担当

1994年次の担当が決められた。

会場設営・運営 田中伸英 (学習院大学)    ダイニング 町田欣弥 (駿河台大学)    ソウシャ

ル・プログラム 内野明 (専修大学) 各種ミーティング運営 森田道也 (学習院大学) 宿泊  
 関連 福田敦 (日本大学) 金銭管理 小島崇弘 (専修大学) セッション運営 亀山三郎 (中  
 央大学) 総合支援 佐原寛二

これらの方々の指揮のもとさらに多くの人々が大会開催のために尽力された。

### 1 1. 大会日本人発表者

#### PLENARY SESSION

Fumio Kodama: Techno- Paradigm Shift and its Research Methodology

\*Michiya Morita, Nobuhide Tanaka, Harunori Mori and Yutaka Takahashi: Communication Network  
 Systems for Competitiveness: the Japanese World Class Manufacturing Case

Higa Teruo: Soft Landing into the Twenty- First Century: The Requirements

#### PARALLEL SESSION

Masaharu Ushijima, Koichi Hori and Setsuo Ohsuga: Computer Aided Organizational Design

Toshizumi Ohta, Antonio A. Montes and Tadashi Yamamoto: A Dynamic Comparison of Organizational  
 Design Alternatives

\*Thomas D. Clark, Jr. and Hironori Kurono: A Conversion Table of DYNAMO into STELLA II

Etsuo Yamamura and Seiichi Kagaya: A System Dynamics Approach to Regional Impact of the  
 Construction of a Submerged Floating Tunnel

\*Kishi Mitsuo, Ryusuke Hosoda, Tomoki Yamada, Hiroki Funahashi and Matsumoto Ippei: Transport  
 Forecasting Based on Artificial Life Concept

\*Takahiro Kojima, Yutaka Takahashi, Kinya Machida and Teiichi Igarashi: System Dynamics Model of  
 Tokyo Subway System

\*Eiichiro Takahagi: Determination Methods of Rate Variables Using Fuzzy Theories

Toshiaki Aoki and Hajime Inamura: An Urban Growth Modeling Based on Urban Attraction

Kodama, Higaの両教授は森田教授からお願いした。\*印は日本支部会員である。多くの会員の発表  
 があり、会員外の発表も見られ、日本での開催の利点があるようである。

### 1 2. 大会日本人司会者

#### PLENARY SESSION

Concluding Session: Michiya Morita

#### PARALLEL SESSION

Policy Analysis: Hironori Kurono

Infrastructure Planning: Atsushi Fukuda

Construction Management: Saburo Kameyama

Urban Planning: Yuzuru Ooshika

Public Policy: Tomofumi Sumita

司会の教授方ご苦労でした。

### 1 3. 日本語セッション

日本人参加者のために日本語のセッションをチュートリアルのように設けるとゆう案が出て、  
 大会と並立で2日間のセッションが組まれた。亀山教授が指揮され、チュートリアルは福田教授  
 が担当し、日大の榛沢教授の教室が手伝った。

#### 14. 会費

大会の会費は30000円、日本語セッション参加費は大会をふくめて50000円であった。

#### 15. 賛助金

会社を回って判ったことは、各業界には賛助金の割り当てをする組織があることである。その組織を通じて賛助金を得るには2年位の期間が必要とのことで、我々の手配が遅すぎたのを痛感した。

(初稿、1995, 9, 16)

(再稿、2001, 8, 5)